

2008 SUMMER

発行/社団法人日本観光協会
URL <http://www.nihon-kankou.or.jp>

観光

KANKOU No.492

季刊 平成20年7月20日発行/通巻492号
ISSN 0917-0618

TOURISM

特集

観光と バリアフリー

Top Interview

観光にとって大切なことは
地域への誇りだと思います。

女優・東ちづる

2 **トップインタビュー/女優 東ちづる** 観光にとって大切なことは地域への誇りだと思います。

4 **注目の観光ニュースポット**

- 十和田市現代美術館 (青森県十和田市)
- 横須賀美術館 (神奈川県横須賀市)
- とこととトレイン (山口県岩国市)
- アミュプラザ鹿児島 (鹿児島県鹿児島市)
- 8 平成20年度 第45回 社団法人日本観光協会通常総会
- 9 第14回日本観光博覧祭「旅フェア2008」
- 10 地域の未来を拓く産業観光⑤ 国内振興チーム/愛媛県新居浜市
- 11 平成20年度第58回日本観光ポスターコンクール 金賞・銀賞・特別賞・入賞作品
- 15 ニューツーリズム紹介 世界遺産・今帰仁城跡(グスク)での夜桜ツアー
- 16 日本の祭 貴船まつり 神奈川県真鶴町

18 **特集 観光とバリアフリー**

- 18 すべての人が楽しめる観光とは 川内美彦
- 20 バリアフリー観光からユニバーサルツーリズムへの課題と展望
 ~当たり前の仕組みを、できるところから始める観光環境づくり 大下 茂
- 24 バリアフリーを観光産業の新しいマーケットに NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター
- 26 ゆくたび感動「飛騨高山」~住みよいまちは 行きよいまち~ 岐阜県高山市
- 28 介護が必要な方にも旅を楽しんでもらいたい NPO法人日本トラベルヘルパー協会
- 30 観光政策ニュース
 期待高まる“プロデューサー”のチエと工夫
 「観光地域プロデューサー」モデル事業の1年
- 32 「産業観光とまちづくり・まちづかい」
 産業観光推進会議 第二次報告書を発表! 国内振興チーム

34 **シリーズ列島観光戦略地図**

- 34 「徳島こそ」のブランドを生かす観光立県とくしまづくり/徳島県
- 37 県民総参加での海洋県長崎の観光立県施策/長崎県
- 40 横浜開港150年記念を軸に大観光イベントを展開/横浜市
- 43 人が集い、交流し、魅力あふれる観光交流都市を目指す/神戸市

46 **観光ニュートレンド**

- 46 四国八十八カ所霊場を基盤とした観光振興に地方銀行の従業員組合がNPOを設立
- 48 文化こそが観光を生む一松江市で進む観光戦略
- 50 情報カタログ
- 52 BOOKS
- 54 ニューツーリズム関連書籍新刊のご案内
- 55 情報カタログ
- 56 ようこそ! ジャパンコーナー 53 関東運輸局の取り組み
- 58 「第3回日本イベント大賞」に見る観光振興入賞作品・制作賞2事例より
- 60 第15回優秀観光地づくり賞
- 62 国際観光ホテル整備法登録コーナー
- 64 日本観光協会からのご案内



表紙写真: 北岳 (山梨県南アルプス市)
 北岳のある南アルプス国立公園は、山梨・長野・静岡の3県にまたがっています。北岳は3192mと、富士山に次ぐ第二の高峰。山稜や山腹には高山植物群落、原生林などがあり、景観が良好に保たれています。
 写真提供: 山梨県観光物産連盟

お問い合わせ: 山梨県観光物産連盟
 〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-8-5 県民情報プラザ1F
 TEL 055-231-2722 <http://www.yamanashi-kankou.jp/index.html>

「花のくに日本運動」推進大会inオホーツク ~花がつなぐ交流と連携~

平成20年9月11日(木)~12日(金)

開催地: 北海道紋別郡遠軽町

主催: フラワーツーリズム推進協議会

コスモスやサンゴソウなどひと足早い北海道の花の秋を楽しみながら、フラワーツーリズムの可能性や北海道、オホーツクの花観光の取り組みについて考えます。



全国産業観光フォーラムinとやま2008 ~「富山のくすり」が育んだ産業富の山~

平成20年9月25日(木)~26日(金)

開催地: 富山県富山市

主催: 全国産業観光フォーラムinとやま2008実行委員会、全国産業観光推進協議会等

全国各地で取り組まれている産業観光に関する先進事例などを交え、新しい観光形態である産業観光を生かした地域の活性化策について参加者と一緒に考えます。



地域紹介・観光ボランティアガイド全国大会(南紀熊野田辺) ~癒し 満たし ようおこし~

平成20年11月20日(木)~21日(金)

開催地: 和歌山県田辺市

主催: (社)日本観光協会

世界遺産として知られる熊野古道、古くから歴史ある温泉地、文化の香りの城下町田辺市内の5会場で分科会を行い、翌日一堂に会しての全体会議を行います。



お問い合わせ

(社)日本観光協会国内振興チーム

TEL: 03-6222-2534 FAX: 03-6222-2539 E-Mail: kokunai@nihon-kankou.or.jp

募集要項は、順次日本観光協会HP <http://www.nihon-kankou.or.jp/home/index.html>

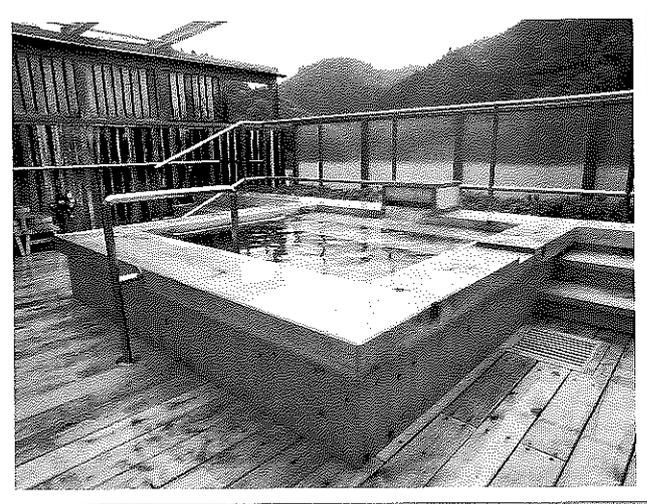
にアップしますので、ご確認ください。

すべての人が、あらゆる場所で観光を楽しむ
そのためには、バリアフリーが必要です。

ハード的な施策はもちろんのこと、
忘れてならないのはソフトの部分です。

観光バリアフリー—それは、これからの観光にとって
何よりも重要な「心」なのではないでしょうか。

特集 観光とバリアフリー



介護が必要な方にも 旅を楽しんでももらいたい

NPO法人日本トラベルヘルパー協会

今後の観光振興の鍵を握っているとされる団塊世代。しかしその世代は、これから高齢化を迎え、旅行を楽しむにも介護が必要になる人々が増加すると予想されます。そんな方々にも旅を楽しんでもらいたい。そんな活動を行っているのがNPO法人日本トラベルヘルパー協会です。

高齢社会の観光

高齢社会を迎えて観光業界も大きな変化が求められています。特に、定年を迎えつつある「団塊の世代」は、これからの観光需要を牽引する中心的存在として期待されています。しかし、10年先20年先には介護が必要となり、旅行を楽しみたいと思っても、それま

でのように気ままに旅に出かけることは難しくなってきました。

それは、多くの人たちに旅行サービスを提供している旅行業界にとっても大きな課題です。旅行業界はできるだけ多くのリピーターを獲得・育成するためにサービスの充実が努めてきました。

介護旅行



た。しかし、介護が必要になってくると、提供できるサービスにも限界が生じてきます。必要とする介護の程度が高くなってくれば、それまで毎年のように旅行を申し込んでくれたお客さまでも断らざるを得ないケースも生

じてくるのです。

こうした両者の課題を解決するためには、介護を必要とする人に付き添ってきちんとサポートし、十分に旅を楽し

旅は最高のリハビリ

日本トラベルヘルパー協会が内閣府から認証されたのは平成18年です。理事長を務める篠塚恭一さんは「株式会社SPIあ・える倶楽部」の代表取締役で、長年にわたって添乗員の育成や派遣などを行ってきました。それとともに、社会的ニーズの高まりに対応して、高齢で介護が必要となった人や健康に不安のある人の外出支援、ケアサービス付きの介護旅行に取り組んできました。

「旅は最高のリハビリと言われます。

て見積もるようになっていきます。なお、トラベルヘルパーの旅費交通費や食費

介護を必要とする方にも感動的な旅を

「トラベルヘルパーへの認知度はまだまだ低いです。ニーズは高まってきました。また、社会貢献に対する意識の高まりを受けて、最近では特に若い世代を中心にトラベルヘルパーになりたいという人も急増しています」と、篠塚理事長は語っています。

その一方で課題もあります。全国どこでも介護旅行を実現するためには、旅先での介護に精通した優秀なトラベルヘルパーが全国各地に必要です。確かに、介護が必要なら手助けをしますが、ボランティアの人も増加していますが、ボランティアの人だけでは事業としての介護旅行を支えることはできません。プロフェッショナルが必要です。

また、トラベルヘルパーは、旅行の介護が必要になって初めて生じる発生意識であるため、トラベルヘルパーの常用雇用は非常に難しくなっています。

そのために、日本トラベルヘルパー協会では新しく上級コースを設置して、プロフェッショナルとして起業できる人材を育成していく考えです。介

などの実費は利用者の負担となります。

護の問題は地域の問題でもありません。したがって、プロフェッショナルとしての知識やノウハウなどを介護旅行も含めた幅広い分野に提供していくことで、事業としても成立できるようにしていこうという考えです。

本格的な高齢社会を見据えてスタートしたトラベルヘルパー制度は、事業としての問題点を少しずつ解決しながら、介護を必要とする高齢者にもより感動的な旅を提供しています。

日本トラベルヘルパー協会の活動

緯をこのように説明しています。ユニバーサルデザインの普及などにより、高齢者が楽しく旅行するためのバリア（障害）は着実に少なくなっています。しかし、完全なバリアフリーを実現することはたいへん難しく、バ

リアは常に残っています。そのバリアを取り除くためには、一人ひとりの手による人海戦術が必要であり、バリアを乗り越えるための人材を育成し、そこで高齢者にサービスを提供しようと考えたのです。

修、全国のトラベルヘルパーが社会活動を行う場の拡大などです。

会員となるためには、ホームヘルパー2級以上か、それに準ずる資格が必要で、研修等を通じて旅行業の知識などを身につけます。現在、会員となつて勉強している人は全国で約50名です。

しかし、会員になるだけではトラベルヘルパーとして高齢者の旅の介護を行うことはできません。そこで、会員として研修を重ねた人は、添乗員の派遣を行っているSPIあ・える倶楽部に登録し、SPIあ・える倶楽部からの派遣として介護旅行を支えるシステムになっています。現在、SPIあ・える倶楽部に登録しているトラベルヘルパーは全国に約500名おり、海外から登録している人もいます。

トラベルヘルパーの利用料金は、介護保険を前提にした基本料金（2万円から2万5000円）をもとに、旅行先の介護環境や必要な介護料金に応じ



介護旅行教室

日本トラベルヘルパー協会は、トラベルヘルパーとして働きたい人や学びたい人を正会員、協会の活動を応援する人を賛助会員としています。主な活動は、外出支援や介護旅行を支える人材としての資質・サービス技術を向上するための研修や講座の実施、旅の認知症予防教室ガイドとしての資格研



リピーターのお客さまの会社訪問